

研究テーマ

ものづくりをととした地域との交流による 持続可能なふるさと教育の実現

岐阜県立中津川工業高等学校

中津川工業高校ってどんな学校ですか？

「誠実信頼」を校訓とし、恵那地区で唯一「工業」の専門的な学習ができる高等学校で、各種部活動でも成果を上げています。

主に機械技術を学ぶ機械科・電子機械科、電気技術を学ぶ電気科、建築・土木技術を学ぶ建設工学科があり、実践的な学習を通して、卒業後は即戦力として地域のものづくり産業の担い手となる生徒を育成しています。



校舎と若い力の像

この研究テーマを選んだ理由は・・・

この地域は少子高齢化による労働人口の減少や、グローバル化する産業での競争力強化などの課題があると考え、学校外での諸活動を通してより具体的な地域の問題点を発見するとともにその解決方法について考え、それを実践していくために必要な能力を、地元の産業界で活躍する方から直接話を伺う機会を増やしたりすることによって身につけることができないかと考えました。

取り組んだ内容とその成果と課題は・・・

○テクノボランティア

◇地域の民生委員さんや社会福祉協議会と連携して、一人暮らしの高齢者宅の建具の交換などを行いました。きれいになった建具を喜んでくれたことや、自分たちの技術を発揮することがとても嬉しく思いました。

◆新型コロナウイルスの影響で、直接高齢者の方のお宅を訪問してお話したりする機会がなかったのが残念でした。

○地域のイベントへの積極的な参加

◇小・中学生対象のイベントで一緒にものづくりを楽しむことで、ものづくりの楽しさを再発見するとともに、コミュニケーションの大切さを感じました。

◆イベント会場でのものづくりには限界があるので、できれば学校へ来ていただいて一歩進んだものづくりも体験していただける機会を増やしていきたい。

○産学官との連携

◇地元の企業や市役所・大学と連携し、金型の製作やロボット制御技術の講習会を通して、より専門的で最先端の知識や技能を学習することができました。

◆特に企業の方には時間的・経済的にかかなりの負担をいただいているので、継続して取り組むために税制上の優遇措置を講じるなどの対策を望みます。

実践をとおして学んだことは・・・

- ・同じ地域の異なる世代の人たちとの関りの中で、地域の強みと課題やそれに対して自分たちができることを認識でき、それを伸長させて将来にわたって地域の発展のために取り組もうと思うことができました。